

教育長は……どう考える

■大川健悦宮城県石巻市教育長に聞く

二度と同じ被害を生まないために

東日本大震災で甚大な被害を受け、関連死を含む死者・行方不明者が4000人弱に上った宮城県石巻市。幼稚園から高校に通う子供のうち、計182人が犠牲になった。その中でも、学校管理下で児童74人と教職員10人が津波にのまれた市立大川小学校の被害は、全国的にも広く知られている。震災から10年を迎えた2021年に、新たに就任した大川健悦教育長に話を聞いた。

■緊迫感の継続を

大川小をめぐると訴訟の判決が確定した。私は、今年5月24日に教育長に就任したが、7年前まで石巻市教育委員会で働いていた。当時は震災の対応をしており、これまでの経緯がある程度分かっている。19年10月に最高裁で上告が退けられ、判決が確定した。ご遺族の方々にも本当に

つらい思いを長くさせてしまったが、責任の所在について、はっきりさせていかなければならず、非常に時間がかかってしまった。犠牲になった教員も痛いっばいやったとは思いますが、結果として、子供の命がなくなったことは、



インタビューに答える大川教育長

何物にも替え難い重要な事実だ。決して忘れてはならないし、二度と起こしてはならない。その緊迫感も、時間がたつて薄れてしまったり、人ごとになったり、ということが無いようにしなければならぬ。

いろいろな活動を通して、緊迫感を継続していく。継続することの意味があって、ある程度できたら終わりではない。災害は激甚化し、頻発し

ているし、常に新しい脅威が増えている。

石巻市は、被災して多くのつらい経験をし、さまざまな活動をしてきた。その経験を上台に、他の地域で活用してもらえればと思う。われわれが被災した時、神戸市の災害支援に、とても助けられた。神戸市は大変な思いをして復活して、それを支援につなげてくれた。経験を他に伝えることは本当に大事なことで、互いの情報を交換しながら、より良くしていくことが重要だと思う。

初代校長を務めた学校安全推進課とは何をずるのか。

市教委は、特に、大川小の事故を受けて、14年度から、学校安全推進課を設けた。学校の安全を担当する部署としては、恐らく他の市町村にない課だと思ふ。私は設置に関わり、初代課長に就いた。子供たちの命を守ることを一番に掲げた課なので、教委だけでなく、市の防災部局や各支所をつなぐ仕事をした。その中で、学校防災推進会議を設置し、学識経験者の指導の下、防災部局や消防、町内会、PTA、各学校の防災担当教員が1人ずつ参加して、安全のための取り組みを推進してきた。

さらに、防災教育、防災研修、防災管理という三つの分野でワーキンググループ(WG)を会議の中に設置。年に3回全体会議を開催するとともに、それぞれのWGで実践的な活動をしている。市立の幼稚園や小中学校は合わせて55校がある。一つ一つを教委が見るわけにいかないのので、WGに各校の教員が代表で集まって、専門家と直接

意見交換をしながら事業を推進する体制にした。

最初に、防災マニュアルのチェックリストをつくった。点検に関する前例がなかったため、何を盛り込めばいいのかを、大学教員や消防、現場の教員と議論を重ねて、ほぼ1年かけてつくった。今はそれに従って、毎年WG内でチェックしている。さらに、それを基に、学校でも見直しを図る。教委の担当者が見ただけでは分からないので、専門家や消防、地元住民を交えて訓練をして、その課題をまた、マニュアルに反映させる。それを繰り返して、やっている。

他に取り組む防災教育は、小学校4年生の街歩き体験の中で、自分の学区内の危険箇所をグループで回りながら、「防災マップ」を自分たちで作っている。交通安全や防災生活安全を学びながら、復興によって変わっていく街の姿も見て、とても意義のある活動だ。

また、市は緊急地震速報の受信機を、各学校に順次配備している。地震発生時の教員にアラームが鳴り、それが校内放送に連動する。地震が来る前の数秒は非常に重要で、アラームが鳴ると同時に、机の下に潜るなどする。小中学校で配備できているのは約80%。将来的には全校に配備したい。今年も震度5弱の地震が、5月にあった。土曜日だったので、中学生が部活動をしていて、そのアラームが鳴って避難できたと、報告があった。同月14日に震度4の地震があった時は、金曜日で授業中だったが、その時も机の下にいち早く入ることができた。地震速報の受信機を配備している

意味があると、改めて実感した。その地震速報では、いろいろな時間帯で、実践的な避難訓練もできる。

震災から10年、2度と同じような被害を出さないため、新しい取り組みだけでなく、震災を決して忘れずに、防災教育を継続することも重要だと思っている。石巻南浜津波復興祈念公園の中の「みやぎ東日本大震災津波伝承館」が今年6月にオープンし、7月には「石巻市震災遺構 大川小学校」の大川健悦伝承館がオープンした。そこで伝えていくことの大切さを、今改めて感じている。さまざまな活動を続けていくことが、安全を確保することにつながると思う。

■安心して学べる学級づくり

防災以外で力を入れる取り組みは、子供たちが安心して、安全に学ぶためには、防災教育だけでなく、子供たちが命を大切にすることを教育や、自分の命も周りの命も大事だ、という気持ちを持たなければならない。不登校対策や学力向上も大きな課題だ。不登校の児童生徒も少なからずおり、安心して学べる環境づくりにつなげたい。市教委は、小中学校が連携して、生徒指導と教育相談の両方を合わせた形で、子供たちが互いを認め合い、学校の中で安心していろいろなことを言えたり、友達と関わったりできる学級づくりを、推進している。

その中で、広島大学大学院の栗原眞二教授に、14年度から体系的で包括的な生徒指導の実践プロ

「気が付き過ぎても、子どもの日常・学校生活の幅を広く伸ばし方を理解する一生幸せなHSCCの育て方」